

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	八戸工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ハチノホコウギョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	原子力体感研修
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	佐藤 学・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	2
	受入企業等名	東北電力株式会社、青森日揮プランテック株式会社
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,3.その他
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	シミュレーターによる操作実習および管理点検業務、施設巡視
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原子燃料関連施設や原子力発電では、実物の施設設備へのアクセスはできない。それぞれの施設設備の教育訓練用のシミュレーター操作によって業務体験をしている。原子燃料サイクル事業者や原子力発電事業者は協力会社も重要な役割を担っており、協力会社は事業者、事業者は協力会社の役割を理解把握することが業務として重要な点である。協力会社と事業者の業務説明や管理点検の対象となる設備の見学説明を体験している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「原子力体感研修」では「原子力発電所等で研修」と「原子燃料サイクル施設での研修」を実施している。本届け出の「原子力関連企業におけるインターンシップ」は夏期休業期間中の同時期に実施する「原子力発電所等で研修」の代替の研修として認めている。報告会と対話会を含めて、「原子力体感研修」では2単位としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	学生のインターンシップ活動の状況視察をしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	大学内の就職課が担当するインターンシップ活動でも実施する社会人としてのマナー等に関する資料を用いた説明をしている。また、青森県内における原子力関連事業や原子力工学の基礎に関する講義をしている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	「原子力体感研修」の報告会として、「原子力発電所等で研修」等とあわせて、協力頂いた事業者等の皆さんにも出席頂き、学生は「原子力関連企業におけるインターンシップ」の報告を実施している。また、日本原子力学会原子力カシニアネットワークの協力により、インターンシップにより得た体験を元にシニアとや学生同士対話する機会を設けて、振り返りと話し合いの機会としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	同時期に実施する「原子力発電所等で研修」の一環として教員とその他の学生が該当事業所を訪問した際に、インターンシップ学生の様子を事業所の担当者と共に教員は同行見学し、学生の活動状況を確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,4.その他

要素④	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。インターンシップによる到達度を含め、「原子力体感研修」の達成度等を可視化している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「原子力体感研修」の教育効果改善を目的としてアンケート継続している。結果は教員と受け入れ事業者と共有している。そのほか、授業評価アンケートや学生の達成度評価および学修の可視化として大学が設定した修得因子についてのアンケートおよび解析を実施している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	連続した5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	原子力発電所等で研修」と「原子燃料サイクル施設での研修」、報告会、対話会を含めれば計10日間	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは月曜日から金曜日までの5日間。「原子力発電所等で研修」は2泊3日+事前学修、「原子燃料サイクル施設での研修」は2泊3日+事前学修、報告会1日、対話会1日。インターンシップと重なる「原子力発電所等で研修」を別日に追加で実施した場合もある。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	インターンシップだけでなく、「原子力発電所等で研修」と「原子燃料サイクル施設での研修」等を含めた「原子力体感研修」に関連した研修等を、協力者と検討会を開催し確認調整している。
6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	協力者との検討会は、平成28年度経済産業省安全性向上原子力人材育成事業の一部プログラムとして、複数の企業・研究所・団体、高等教育機関等の協力を得て実施している。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.hi-tech.ac.jp/syllabus/2017/">http://www.hi-tech.ac.jp/syllabus/2017/</a>
問い合わせ先	大学等名	八戸工業大学
	担当部署名	学務部 就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	栗橋 秀行
	電話番号	0178-25-8029
	メールアドレス	job@hi-tech.ac.jp